

催しの不足金巡り

三島市が文書偽造

三島市が事務局を務める「三島市地域ブランド推進協議会」のイベント不足金七十八万円を補填するため、市が協議会へ交付する補助金の目的を変更して文書を偽造したり、それに合わせて市議会での答弁を訂正したりしていたことが、関係者への取材で分かった。市幹部らは事実関係を大筋で認めた上で「良い方向に整えるための行為で、偽造や改ざんではない」と主張した。(佐久間博康)

市幹部「整える行為」



関係者によると、文書を偽造した理由は、二〇一七年二月に市中心部で開かれた食のイベント「アモーレみしま」の費用が見通しの甘さで、七十八万円不足したため。不足分は協議会委員が立て替え払いしていたが、協議会は一六年度決算で協賛金として処理。委員に「返金できない」と伝え、トラブルになりかけた。この不足金を補填するため、市は一六年十月に「地元産のサツマイモ三島甘藷の商品開発」を目的として交付した協議会への補助金

二百万円の使用目的を一七年四月に「箱根西麓三島野菜や市内農産物をPRするイベントの企画」に変更した文書を偽造、日付も一六年十月と偽っていた。

さらに協議会事務局の市職員は承認済みの協議会一六年度決算を改ざん。関係者によると、「アモーレみしま」事業への市補助金は百二十一万円だったが、百五十五万円に増額、差額の三十四万円を不足金の補填に充てた。既に他の事業に四十五万円弱が充てられていたため、残りの不足金四十四万円は協議会の幹部二人が協賛金として支出し補填した。

この補助金をめぐって

つじつま合わせ終始

静岡大人文社会科学部の日詰一幸教授(政治学)の話 文書偽造と言えるかは判断がつかかねるが、不透明な意思決定で手続きとしておかしい。市の説明は詭弁(きべん)にすぎない。決算処理は通常起こりえない。いずさんなもので、答弁の訂正も書類上の変更をして対応すべきだ。つじつま合わせに終始している印象だ。市の統制下にある任意団体は説明責任を果たせるよう、透明性の高い事務手続きが求められる。

は、一七年二月市議会で三田操産業振興部長は「甘藷の加工品開発に交付した」と説明したが、同年六月市議会では渡辺義行産業文化部長が「アモーレみしまに支出していた」と訂正した。

複数の関係者によると、補助金の上限は一事業当たり五十万円と定められており、上限を超えるには審査会を開き市長が特別に認める必要があるが、市は審査会を開かず一六年九月十四日に「審査会を実施し、審査員了承済み」として、二百万円の交付を決めていたことも分かった。

渡辺市産業文化部長らは「事業完結のため不足していた書類を整えた。決算は

市民納得させられぬ

静岡文化芸術大文化政策学部の田中啓教授(行政学)の話 補助金の支給目的はあらかじめ明確に設定される必要があるが、事後的に都合のいいように変更されてはならない。市の施策を行うために別組織を設置して事業実施を担わせる手法を否定はしないが、通常の施策以上に透明性を確保し、説明責任を果たす必要がある。一連の市の対応や説明は不十分で、多くの市民を納得させられるものではない。

幹部と相談し、市補助金に算入できる経費を組み込み最善の形にした」と強調。答弁訂正については「二月議会前に協議会の間で目的

変更は共有されていたため、二月議会の答弁は間違っていたことになる」と述べた。審査会の有無は「調査する」とした。